

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各教科において ICT 機器も活用しながら、双方向のコミュニケーションのある授業を目指す。	中間評価		最終評価	
		・授業を通して、児童が夢中になって学びの対象に関わり、「聴く」こと、「考える」こと、「表現する」ことの3つに重点をおきながら、自分の考えをもつことができる授業づくりを目指す。				
環境作り		・クラスの中で、一人ひとりの児童が安心感と他者への信頼を実感できる学級経営を目指す。				
		・児童にとって見通しのもてる授業設計と、それを可能にする教室環境（ユニバーサルデザインの視点）を整備する。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学 平仮名や片仮名については、正しい読み書きができるようになってきた。拗音や濁音については、個人差がある。</p> <p>学 提出される課題やワークテストの状況を見ると、漢字の書き取りや書き順について誤りがあり、まだ十分身に付いていない状況である。</p> <p>学 姿勢を正しくすること、相手を見て話を聞くこと、話の内容を聞き取り行動することができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、相手に自分の考えを的確に伝えるために、促音、拗音、片仮名の読み書きが正しくできるようになる必要がある。 読み書きができるようになるために、正しい文字の形を捉えて書くことや正しい筆順で書く意識を形成する必要がある。 実生活の場面において、分かりやすく伝えるために、「話す」の基本的な習慣とルールを身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しく読み書きができるようになるために本をたくさん読むことを推奨し、正しい言葉に触れる機会を増やしていく。朝の時間や学習の導入の時間など、季節を表す言葉や日付を表す言葉などに触れる時間を適宜設け、正しい言葉や文字に触れる機会を増やしていく。 国語ノートや漢字ドリルを活用して、丁寧に書くよう、正しい筆順や文字の形をきめ細やかに指導する。プリントやタブレット端末を活用して、繰り返し練習させたり、定期的に小テストを行ったりして、定着を図る。 実生活の場面において、話の内容を理解できたか振り返る時間をこまめに設定していく。朝の会などにスピーチを取り入れ、話すことや、友達の話を聞くことの経験を増やし、定着を図る。 		
	算数	<p>学 加法や減法の計算の定着には、個人差がある。</p> <p>学 「どちらがおおい」「大きな数」「ひろさ」の学習では、直接操作する活動を通して、比べることの理解が深まり、量感が育った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 加法と減法の計算を学習後、定着のために補充問題をやる必要がある。 数学的な表現を確実にするために、加法、減法が用いられる場面を式に表したり、場面を絵や図で表したりする必要がある。 日常生活でも、さらに量感を育てるための経験ができるようになるために、具体物の操作の指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間や宿題で、計算ドリルやタブレット端末、プリントなどを活用し、繰り返し練習することで、定着を図る。 問題をしっかりと把握することができるように、言葉や数に注目させ、絵や図、式で表すことができるように段階を踏みながら丁寧に指導していく。 日常生活で目にしているものを授業でも取り上げ紹介したり、具体物を活用し、操作させたりしながら、理解を深める。 		
3	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回っているが、「書くこと」は全国平均を僅かに下回った。また、「文章を書く」は全国平均を下回った。</p> <p>学 姿勢を正しくすること、相手を見て話を聞くこと、大事なことを落とさずに聞き取ることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相手が話していることを聞き、内容を理解する力を伸ばしていくことができるよう指導する必要がある。 カタカナで表すべき言葉を判断し表現できるよう指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチを取り入れたり、話型を用いて人の前に立って丁寧に話したり、聞き取ったりする力が身に付くよう指導する。 様々な本や詩を授業の中で紹介し、朝読書や読書月間などで読書をする機会を設けるなどして、文や物語に触れる機会を設け語彙力を高める。 		

	算数	<p>調新宿区学力定着度調査では、全体的に5ポイントほど目標値を上回った。「たし算」に関しては全国平均を2ポイントほど下回っている。</p> <p>学タブレット端末を使った問題作りや、場面を式で表す指導を繰り返し行ったことで、7割程の児童がテープ図を使って問題場面を表し、正しく立式ができるようになった。しかし、文章題に出てくる数値を順番に立式すればよいと考える児童もいるので、問題場面を絵や図に表すなど、問われている内容を整理するための指導を継続する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのあるたし算を苦手としている児童が多い。授業場面では問題を解くことができても、テストや練習問題に取り組む際に、焦りなどからケアレスミスが目立つため、指導する必要がある。 ・リットルやセンチメートルなどのかさや長さの量感を具体的にイメージできるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題を解くときは、併せてたしかめ算をさせ答えが合っているか見直す習慣をつけるように指導していく。 ・量感を養うために授業で具体物を使用し、実際のかさや長さを体感し、それぞれの大きさをイメージできるような場面を設ける。 		
4	国語	<p>調新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回ることができたが、「書くこと」の「指定した長さで文章を書く」の観点で平均値を下回っていた。</p> <p>学学習の振り返りを書かせると10字程度しか書けない児童が複数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間内で決められた字数を書くことができるようにする必要がある。 ・読み取りの自由記述等、内容をきちんと把握していないと解けない問題を繰り返し取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日その日の振り返りを書くことで、書くことへの抵抗感を少なくし、書ける分量を多くしていく。 ・文章の型を掲示し、正しい文章の書き方を指導する。 ・これまでは3部構成を意識させていたが、今後は4部構成(起承転結)を意識して書かせる。 ・国語の授業で、要約の学習を積極的に取り入れ、意識して読み取りの練習をする。 		
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回ることができたが、「10000より大きい数」の学習では個人の学習進度の違いにより点差が大きく開いてしまった。</p> <p>学計算力が身につけていない児童が学年を通して複数名いる。また場面を式に表したり、工夫して計算したりすることが苦手な児童はさらに多くなる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習進度に差が出ないように課題提出を徹底する必要がある。 ・位を間違えず、基礎基本の四則演算を間違えないように計算できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習で練習問題に取り組みその場で丸付け、解説をして繰り返し学習を進めていく。 ・必要に応じて放課後に個別に指導をし、四則演算等基礎基本を身に付けさせる時間を設ける。 		
5	国語	<p>調新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回ったが、昨年度と同様に「書くこと」は目標を下回った。また、読解に時間がかかり、書くことに時間を回せずに取り組めない児童も見られた。</p> <p>学自分の考えや意見を発表する児童に限られており、積極的に自分の思いを表現する児童が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書く力を高めるために、内容の中心を明確にしたうえで、自分の考えを積極的に言葉にできるようにする必要がある。また、時間配分の仕方についても指導が必要である。 ・自分の考えに自信がもてるようにしたり、自分の考えを文章に表す語彙力を身に付けたりする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教科に限定せず、全教科を通して自分の意見をノートやワークシートに書く指導を行い、発表する機会を多く設ける。また、机間指導を行って、話し言葉で意見を引き出したり、出来ている児童の書いた意見を価値付けしたりする。 ・ペアやグループで発表する経験を増やし、自分の考えを発言することに自信をもてるようにしていく。 		
	算数	<p>調新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回ったが、「データの活用」「折れ線グラフ」は目標を下回った。一方で、「変化と関係」「簡単な場合についての割合」は10.7ポイント、「角の大きさ」は10ポイント目標より上回っている。</p> <p>学指示がないとノートを取ることができない、題意を把握できずに固まってしまうなど細かな支援を必要とする児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な計算の仕方は身に付いているが、解き終わった後に見直す習慣を定着させる必要がある。また、単純な計算だけではなく、応用問題に取り組む機会を増やす必要がある。 ・ICT機器を用いたり、大切なことをカードに書いたりするなど、視覚的にとらえやすいよう指導をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習でも、見直しが習慣化するように声をかけていく。また、社会や理科など、他教科でデータやグラフの活用する場面を通して、力をつける。 ・新しい単元の学習前に既習内容の時間を取ることで基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、つまづきのある児童には、放課後学習など補充学習を利用して指導する。 		
6	国語	<p>調新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回っている。しかし、「言葉の学習」や、「文章を書く」の学習は目標値を下回った。</p> <p>学自分の考えを一定の分量でまとめて書いたり、気持ちや状態について表現するための語彙が乏しかったりするため、毎回同じような作文になってしまう児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字数や長さを指定された長い文章を書くことができるようにする必要がある。 ・文意を理解することはできるが、学年相応の語彙の獲得が十分でない児童が多く、作文で用いて表現を工夫することが難しいため、指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現の言葉を提示し、それらを用いて文章を書く活動を取り入れていく。 ・友達と作文を読み合い、多様な表現に触れるような学習活動を取り入れることで、自分の作文に活かしていけるようにする。 		
	算数	<p>調全領域において目標値を上回った。領域別正答率でみると、「整数のなかま分け」、「小数のかけ算・わり算」、「合同」、「図形の角」については、区平均を下回った。</p> <p>学基本的な計算技能は身に付いているが、検算をするなどの丁寧さや、複雑な課題に直面すると、最後まで粘り強く取り組むことが難しい児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三角定規や分度器、コンパスといった用具を用いて図形を描けるように指導していく必要がある、 ・演算処理や習熟度に応じた指導をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を十分に確保し、課題に対して丁寧に取り組めるように指導する。その後、ICT機器を活用したり、友達と作図の過程を説明し合ったりする活動を通して学習内容の理解を深めるような授業を展開する。 ・習熟度に応じた課題に児童一人ひとりが向き合えるようにし、朝学習や放課後の時間にもデジタルドリルや東京ベシック・ドリルを活用しながら、思考力を高める指導を行っていく。 		

音楽	<p>学音楽活動に対して、概ね意欲的に取り組んでいる。新出事項への興味関心も高い。</p> <p>学歌唱や器楽演奏など表現することは好きだが、曲想の変化に気付いたり、進んで表現を工夫したりするまでは至っていない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏経験が少ないため、指導方法の工夫が必要である。 ・曲想と音楽の構造の関わりに気付き、音楽を聴いたり、音楽をつくったり、表現を工夫したりする力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策をしながら、リコーダーや鍵盤ハーモニカの学習にも取り組み、器楽演奏の幅を広げていく。 ・音楽ワークを活用しながら、知識を定着させるとともに鑑賞の活動を充実させ、自分たちの表現に生かすことができるようにする。 		
図工	<p>学課題には、前向きに取り組んでいる。制作途中の作品を中断し、新たな材料でやり直しをしようしたり、失敗を気にしたりして、課題に向きえない様子も見られる。</p> <p>学自他の表現を受け入れながら、他者の気持ちを考えたり、思いを伝え合ったりして、つくる楽しさを味わう経験が、まだ浅い様子も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の感覚や行為から、形や色で表し、見方や考え方を広げ、新たな価値を柔軟に創り出していくことの良さを実感させる必要がある。 ・コロナ禍での感染防止策をとりながら、可能な限り、児童同士の関わり合いを深める造形活動を取り入れ、児童の主体性や寛容性を育む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の過程で、新たな視点ももてるように、材料との関わりを更に深めたり、お互いの作品を見合う場を適宜取り入れたりし、いろいろな表現を認め合う態度を育成する。 ・造形活動を通して、譲り合うことや他者の気持ちを考えながら制作することで、みんなが気持ちよく取り組めることを伝える。いろいろな表し方ができる雰囲気大切にしながら、創り出す楽しさを実感できる題材の工夫をする。 		
支特					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況 学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況 ※分量は2ページ以上となってもよい。